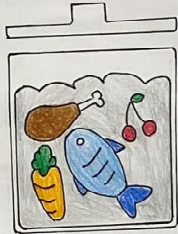


実はヤバイ!?

～ 食品ロスの現状 ～

日本の食品ロス量

世界の食料支援量



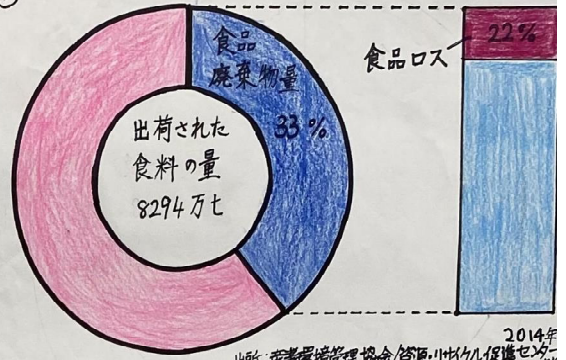
646万
トン



320万
トン

出所: 静岡県公式より 2015

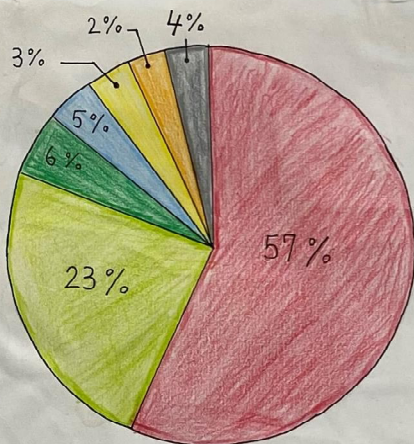
②



2014年
出所: 産業環境管理協会/資源リサイクル促進センター

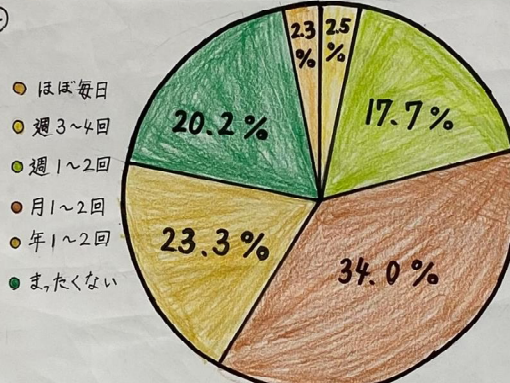
このグラフや絵を見ていると日本の食品ロスが捨てられる食品の量が世界の食料支援量の約2倍もあることがわかります。日本の人口約1億2000万人が食品ロスを行っており、世界の人口約75億人の食料支援量よりも多くなっていることに驚かされました。また、このグラフでは出荷された食品の全体の量の約3割が食品廃棄物となっており、その食品廃棄物のうちの22%が食品ロスが原因となっており、つまり約294万tの33%が食品廃棄物に陥っているのに対し約2737万tの45%が食品ロスが原因となっており、その2737万tの22%が食品ロスが原因となっており、約602万tの食品がこの食品ロスとなっていることとなります。これはとてもかなり大変な数値で私たちがこの食品ロスという問題をより考えなければならぬと思います。

③



● 食べ残した ● 傷んでいた ● 賞味期限切れ
● 消費期限切れ ● おいしくない ● その他 ● 無回答
2017年出所: エネフより (調査時作成) 調査用紙が各店舗で回収された

④



● ほぼ毎日
● 週3~4回
● 週1~2回
● 月1~2回
● 年1~2回
● まったくない

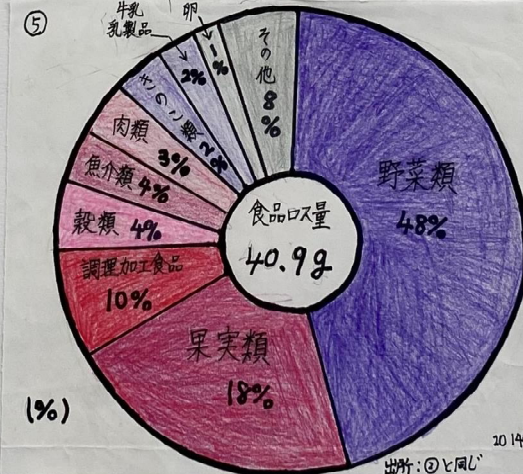
出所: ハウス食品グループ本社より 2022年

食品を捨てる回数を見てみると、月1~2回、年1~2回が多く合計7割を占めています。また、まだ多い中で、食品を全く捨てないという回答も20%を占めており、1人1人の食品を捨てる回数が減りつつあることがわかりました。しかし、自分自身の理由で食品を捨てる人がまだまだ多いことがよくわかる結果となっています。

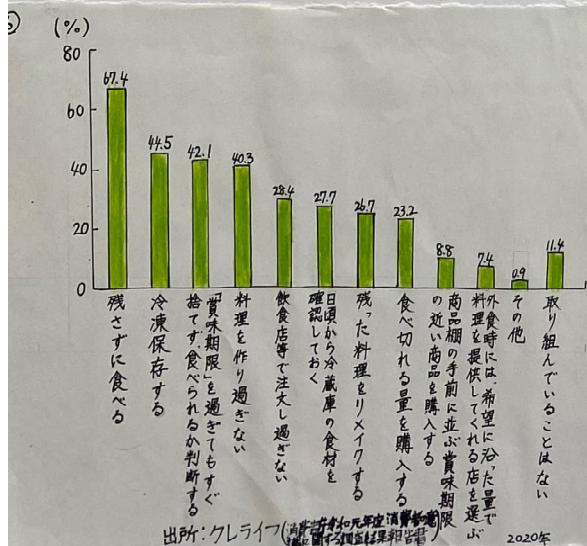
このグラフは食品ロスが捨てられる食品の種類についてグラフ化しています。一番多いのは「野菜類」で理由としては家庭での食べ残しや消費期限切れなどによる廃棄が原因となることが多いと推察されます。また、「菓子類」も同じく消費期限切れや賞味期限切れによる廃棄が多くなることがあります。その他に様々な種類の食べ物が捨てられています。

食品ロスを原因として一番多かったのが「食べ残し」です。食べ残しをする人の多くが「量が多すぎて...」などの自分自身の問題で食べ残しをしていました。また「傷んでいた」や「賞味期限切れ」などの理由も多く人々があまり食べ物の賞味期限や消費期限を見ていなかったり、傷む前に使っていないことがよくあります。

⑤



出所: ②と同じ 2014年



出所: グレライフ (調査時作成) 調査用紙が各店舗で回収された 2020年

ここでは食品ロスの現状やその原因についてお話ししました。私たちが食品ロスを減らすためにできる身近なことには何があるか？左のグラフは食品ロス削減のためにどのようなこと対策をすればいいかについてアンケートがとられているのを調査した結果のグラフです。このグラフの対策の中で一番多かったのが「残さずに食べる」ということでした。この残さずに食べることは本人が意識をかけるだけでどの人もできると思います。また、その他にも「飲食店等注文し過ぎない」「食べ切れる量を購入する」といった自分自身の調整だけでできることだと思います。ただ、自分の意識を高めることは難しいため、できるわけだけではないと思います。だからこそ意識に注目しながら「残さずに食べる」「食べ切れる量を購入する」「食べ切れる量を購入する」といった意識が本人に伝わり、それによって食品ロスを減らすためにできることを考えて協力し合うことができれば、それが大変な歩みとなり食品ロスを減らすのではないかと感じました。

1人1人の行動が今後の食品ロスを変えていく!